海外トピックス

静岡県海外駐在員報告

2026. 11

静岡県企画部地域外交課



明洞芸術劇場(韓国・ソウル市)

東南アジア 静岡×シンガポール、共創で拓く農業の未来

インドネシア旅行会社が静岡の絶景・文化体験を高く評価！

中 国 あれから１年・・・、青島市での「日本プロモーション」から見た日中関係の今

韓 国 韓国国産ロケット「ヌリ号」打ち上げに成功

ソウルで「日韓交流おまつり」が開催

台 湾 静岡FIDサッカー連盟、台湾でユニバーサルサッカー教室を開催

民進党候補の支持率が急伸　40 代が一騎打ちの台北市長選挙

東南アジア駐在員報告
駐在員:村川　未帆

経 済

静岡×シンガポール、共創で拓く農業の未来

10 月 30 日、シンガポールのテマセク工科大学で、第７回静岡・シンガポールアグリフードフォーラムが開催された。本フォーラムは、静岡県とシンガポールの工科大学（ポリテクニック）等との覚書に基づき、農業・食品分野における連携成果の共有や、新たな共同研究、ビジネス展開、人材交流の促進を目的に、両地域で交互に開催している。

今回は「イノベーション×国際共創で導く、食料・農業システムの変革」をテーマに、基調講演や連携事例の発表、農業・水産養殖分野の分科会等が行われ、現地・オンライン合わせて 220 名以上の申込みがあった。食料の９割以上を輸入に依存するシンガポールでは食料安全保障が重要な課題であり、ＡＩや自動化技術による生産性向上や持続可能な食料生産、国際連携の可能性について議論された。

フォーラムに先立ち、静岡県の訪問団は現地のアグリテック企業等も視察した。視察先の１つ「Greenphyto」では、高さ約 23m、５階建ての世界最高層とされる垂直型植物工場で、政府の支援を受け、ＡＩやロボットによる野菜生産の完全自動化を実現している。人が栽培工程に立ち入ることなく、機械によって衛生的かつ効率的に野菜が生産される様子は、まさに未来の農業を思わせるものだった。土地や労働力が限られる中、先端技術を駆使して食料自給率の向上を目指すシンガポールの取組が印象的だった。また、現地企業 Tomato Town が運営する屋上農園では、５月号でも紹介した県内企業Happy Quality との連携によるトマト栽培の実証実験が最終段階を迎え、生産拡大後の市場展開を目指していた。フォーラムを契機に始まった両社の連携が、実証から事業化に向けて着実に進展していることを実感した。今後もこうした連携を具体的なビジネスにつなげられるよう、引き続き支援していきたい。



経 済

インドネシア旅行会社が静岡の絶景･文化体験を高く評価！

10 月 20 日から 23 日にかけて、浜松市と共同で、インドネシアの旅行会社・航空会社を招いたファムトリップを実施した。今回は、企業の報奨旅行や富裕層向けのオーダーメイド旅行等を取り扱う旅行会社を中心に招聘した。

インドネシア市場では、ＳＮＳ映えする景観や日本ならではの文化体験への関心が高い。今回の視察でも、玉露の里での抹茶・浴衣体験、駿府匠宿での伝統工芸体験、富士山世界遺産センターでの歴史・文化に触れる見学などが好評だった。特に印象的だったのは、伊豆パノラマパークでの反応である。東南アジアの旅行者は長距離の徒歩移動を敬遠する傾向があるが、ロープウェイで山頂に上がると、駿河湾や富士山を望む絶景に歓声が上がり、展望スポットまでの階段も苦にならないとの声が聞かれた。

今回高く評価された県内各地の景観や文化体験を旅行商品造成につなげ、インドネシアからの更なる誘客を図っていきたい。



中国駐在員報告
駐在員:石川　祐介

経 済

あれから１年…、青島市での「日本プロモーション」から見た日中関係の今



10 月 24、25 日、中国事務所は、山東省・青島市で開催された日本プロモーション「青島ジャパンフェア」に出展し、本県の経済・観光ＰＲを行った。

同イベントは、旅行会社ＪＴＢの中国現地法人が現地の大型商業施設で開催し、日系企業や自治体がプロモーションを行うイベントだ。例年、上海市ほか各都市で年６～７回を開催するが、昨年 11 月の高市首相による台湾有事発言から日中関係は急激に悪化し、今年の４～９月に３都市（江蘇省・蘇州市、湖北省・武漢市、遼寧省・瀋陽市）で予定していたイベントは、施設側からのキャンセルで全て中止となった。今回、ＪＴＢは日系商業施設であるイオンモール（青島西海岸新区店）の協力を仰ぎ、今年度初めての開催にこぎつけた。

日中間の航空便は対前年比で約６割まで減少し、日本の一部報道では、「中国では日本行きの団体旅行の販売が止められている」との報道も目にするが、実は地域ごとに温度差が生じている。たとえば北京市（中国における政治の中心地）、湖南省長沙市（毛沢東氏の出生地付近）など政治問題に敏感な地域では、各旅行社が自主的に日本商品の販売を控える状況が続いている。一方、青島市では、各旅行社は販売に特段の制約をかけることなく、現在でも本県への積極的な団体送客が続いている。現地では、本県ブースを訪れた来場者の反応も上々であった。ＳＮＳ（小紅書）では約 400 名のフォロワーを獲得したほか、昨年７月に新規就航した静岡－青島線の運休を惜しむ声も聞かれた。

在青島日本国総領事館の関係者によれば、青島市で日中関係悪化の影響が軽微であるのは、地元政府との関係性や、全国的にも日系企業（機械・家電・食品など）の進出が多い土地柄などの要因も影響しているのではと話す。とは言え、会場（イオンモール）には様々な思想のお客様が来場することから、主催者側は炎上回避の準備を怠らない。各出展者には、事前に禁止事項（日本国旗の掲載、着物・浴衣の着用、和太鼓などのプロモーション実施）が示され、各出展者は共同でイベント終了まで公式ＳＮＳにイベント情報を発信しないという自主規制を行い、イベントは無事に開催された。

イベントに出展していた日系食品メーカー（乳酸菌飲料）にこの１年の状況を聞くと、「両国関係の悪化で、売場を目立たないスペースに変更されたケースが数件あったものの、売上にはほぼ影響していない」と話す。家族連れで賑わう日曜日の午後７時、イオンモールのテナント「はま寿司」では、100 組超が入店を待っていた。日本では日系企業の中国からの撤退が強調されているが、スシロー・はま寿司など回転寿司チェーンは中国大陸での出店攻勢が続く。この数年で中国人にとって回転ずしは、「日本にしかない珍しいサービス」から、「ファミリー層が週末に立ち寄る選択肢の１つ」になった。中国からのインバウンド客が減少している間、こうした現地の環境や旅行客のニーズに変化が生じていることは、受入側としても気に留めておく必要があるだろう。



韓国駐在員報告
駐在員:小川　雄太

社会･時事

韓国国産ロケット「ヌリ号」 打ち上げに成功

韓国が独自開発した国産ロケット「ヌリ号」が 10 月 7 日、韓国南部の羅老（ナロ）宇宙センターから打ち上げられ、約 20 分の飛行を経て、衛星 14 機を目標軌道に投入した。搭載したのは、地球観測を行う超小型衛星５機と、大学や企業などが開発した小型衛星 10 機で、今回、ヌリ号はこれら小型衛星複数をまとめて宇宙へ運ぶことに成功し、韓国の宇宙開発にとって画期となったと評価されている。一方、小型衛星のうち 1 機はロケットから分離できず、課題も残っている。

ヌリ号は、韓国が外国産のロケットに頼らず自国の衛星を宇宙へ送り出す能力を確立するために開発された。2021 年の初飛行では衛星の軌道投入に失敗したが、2022 年に成功。その後も打ち上げを重ねて今回が５回目となった。今回の成功は、打ち上げ技術の信頼性向上に加え、民間企業が製造や運用の経験を積む機会にもなった。

衛星は、地表の観測や環境変化の把握、災害への対応など、幅広い分野での活用が期待される。韓国政府は今後、打ち上げを継続して技術を成熟させるとともに、衛星網の整備や宇宙産業の育成を進める方針だ。2027 年後半にも次の打ち上げを計画しており、国産ロケットを継続的に運用できる体制づくりを目指している。今回の成果は、韓国が宇宙開発を政府主導の研究段階から、民間企業も担う産業へと発展させるうえでも意味を持つとされる。

打ち上げ当日は、李在明（イ・ジェミョン）大統領も青瓦台（チョンワデ）の執務室でヌリ号の打ち上げをリアルタイムで視聴していたそうだ。大統領は打ち上げ成功を見届けると「政府が打ち上げを積極的に支援した成果」と評価し、更に、今後は打上周期を縮め衛星技術の発展を更に加速させるよう求めたとのことである。

社会･時事

ソウルで「日韓交流おまつり」が開催

例年のイベントとなっている日本と韓国の交流イベント「日韓交流おまつり in ソウル」が 10 月 10 日、国際展示場 COEX で開催された。今年は「より良い未来へ、新たな一歩」をテーマに掲げ、日本からは復興庁や農林水産省等の国の機関や各自治体、企業が参加し日本の食や観光資源の魅力等をアピールした。

日韓交流おまつりは、日韓国交正常化 40 周年を記念して 2005 年にソウルで始まり、今年で 22 回目を迎える。当日の来場者は約６万 8000 人となり、昨年の６万 7000 人を上回る結果となった。

昨今の日本旅行や日本食人気を背景に、会場は若者や家族連れが多く訪れ盛況を博しており、日韓ダンスチームの公演や J－POP、K－POP のコンサートなどが行われ、観客は大いに楽しんでいる様子であった。

静岡県もブースを出展し、県内の観光情報の PR を行った。昨年を上回る来場者数もあり、用意したパンフレット類は全て配布することができたほか、静岡県へ旅行するにあたっての具体的な行程の相談などもあり、韓国における日本旅行への関心の高さを改めて感じる機会となった。

台湾駐在員報告
駐在員:市川 美奈子

行 政

静岡 FID サッカー連盟、台湾でユニバーサルサッカー教室を開催

10 月 19 日～21 日、NPO 法人静岡 FID サッカー連盟が台湾でユニバーサルサッカー教室を開催した。

同連盟は 2017 年から毎年台湾でユニバーサルサッカー教室を開催しており、今年で 10 周年を迎えた。参加者は、台湾の知的障がい者や視覚障がい者だ。台湾の特別支援学校である台北啓智支援学校、桃園支援学校などの体育館で開催されている。弊所は協力団体として毎年この取組を見学させてもらっている。

教室開催日の朝９時に会場に伺うと、ほどなくして、生徒たちが教員に引率されて会場に到着した。静岡 FID サッカー連盟の西村氏によると、毎年参加を楽しみにしている生徒もいるそうだ。ウォーミングアップのあと、静岡 FID サッカー連盟の瀬戸脇氏の指導のもと、「ボイ（Voy）」という発声練習をする。目が見えない、または見えにくい状態の選手たちが自分の位置を周囲に知らせて衝突を防ぐための安全ルールだそうだ。



【サッカー教室の様子】

その後、２人１組になって手を叩きながら横歩きをする訓練をしたり、音だけでボールの位置を判別する訓練を繰り返したりしているうちに、生徒たちはできることが短時間でどんどん増えていった。来年は新竹市での開催も決まっているとのこと。同連盟が日本と台湾をユニバーサルサッカーでつなぐ取組を続けられていることに敬意を表したい。

社会・時事

民進党候補の支持率が急伸 40 代が一騎打ちの台北市長選挙

11 月 28 日に台湾全土で行われる統一地方選挙を前に、候補者が各地で遊説を繰り広げている。そんな中、今年特に注目されているのが台北市長選挙だ。現職であり国民党の蔣萬安（しょう・ばんあん）氏と、与党であり民進党の沈柏洋（しん・はくよう）氏。どちらも 40 代の若き候補者だ。

沈氏は昨年７月、民進党の立法委員として、国民党・民衆党に対する大規模リコールを主導した人物。国民党の立法委員 24 名と民衆党所属の地方首長１名を対象とした大規模リコールは空前の盛り上がりを見せたが、結果は全て失敗。１人も罷免できなかったため、今年５月に民進党が沈氏を台北市長候補に指名したときには、現職の蔣氏が圧勝するのではと見られていた。しかし秋以降の短期決戦を見据えて戦略を組み立てていた沈陣営は９月に入ってから猛烈な追い上げを見せており、10 月下旬の最新世論調査では、沈氏が一歩リードという結果が伝えられている。

10 月下旬には、ゲームのような画面に市民が自由に意見や要望を書き込める公約「HEART 政策島」を沈陣営が公開し話題となった。投票日は 11 月 28 日。台北市民はどの候補者に市政の舵取りを任せるのか、引き続き注目したい。



【出典：HEART 政策島】

静岡県
海外駐在員事務所

●東南アジア駐在員事務所(シンガポール)

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(SOHO2), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	http://www.shizuoka.sg/		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

●中国駐在員事務所(上海)

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号　国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	http://www.shizuokash.com		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

●韓国駐在員事務所(ソウル)

住所	3rd Floor,50,Eulji-ro,Jung-gu,Seoul,Korea 04534(クレアソウル内)		
電話	+82-2-733-5681	FAX	+82-2-732-8873
URL	http://shizuokaseoul.com/ https://blog.naver.com/goshizuoka		
E-mail	shizuoka@clair.or.kr		

※2026 年４月に自治体国際化協会（クレア）ソウル事務所に移転し、引き続きこれまで同様の業務に従事しています。

●台湾駐在員事務所(台北)

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号　連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	http://www.shizuoka.org.tw/		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

＜日本での連絡先＞

静岡県 企画部 地域外交課
住所：静岡市葵区追手町９-６
電話：054-221-2505　ＦＡＸ：054-221-2542
E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp